

特集

整形外科

健康講話

「食物アレルギー」とは



～専門性の充実と地域医療への貢献～

当院整形外科では、地域の基幹病院として骨折や外傷などの救急医療を担うとともに、人工関節手術や脊椎手術など専門性の高い医療を提供しています。

▶ 総合的な専門診療体制

当科の診療の中心を担っているのは、股関節外科を専門とする萩尾医師です。萩尾医師は整形外科医師の中で最も経験豊富な医師として長年にわたり地域医療を支え、外傷診療から人工関節手術まで幅広い診療に携わってきました。特に股関節疾患に対する診療実績は豊富で、人工股関節置換術をはじめとする高度専門医療を継続して提供し、現在の当院整形外科の発展を支えてきた中心的存在です。

その確かな診療基盤のもと、2024年4月には肩・膝関節外科を専門とする日山医師、脊椎外科を専門とする牛尾医師が赴任しました。これによ

り、肩関節疾患や膝関節疾患、脊椎疾患に対する専門診療体制が大きく強化され、地域の患者さんが遠方の医療機関へ紹介されることなく、当院で専門的治療を受けられる環境が整いました。

さらに2026年4月には、手の外科を専門とする田中医師が赴任しました。これにより、手根管症候群、ばね指、腱損傷、神経損傷、手指外傷など、手や上肢に関する専門診療も充実し、当院整形外科は股関節外科、肩・膝関節外科、脊椎外科、手の外科を有する総合的な専門診療体制へと発展しました。

▶ 救急搬送患者を含む外傷手術にも積極的に対応

オルシス(手術システム)実績によると、2024年度から2025年度までの2年間で実施した手術件数は1,216件に達しました。地域の高齢化に伴い増加する変形性関節症や脊椎疾患への対応に加え、救急搬送患者を含む外傷手術にも積極的に取り組んでいます。

肩関節領域

肩関節領域では、日山医師を中心に腱板断裂に対する関節鏡視下腱板修復術を実施しており、2024年度20件、2025年度27件、2年間で47件を行いました。また、変形性肩関節症や広範囲腱板断裂症例に対する人工肩関節手術も2年間で34件実施しており、専門性の高い肩関節診療を展開しています。



股関節領域

股関節領域では、萩尾医師を中心に人工股関節置換術（THA）および再置換術を2024年度45件、2025年度55件、2年間で100件実施しました。変形性股関節症や大腿骨頭壊死症などに対し、疼痛の軽減と機能回復を目指した治療を行い、多くの患者さんの生活の質向上に貢献しています。



膝関節領域

膝関節領域では、人工膝関節置換術（TKA）および単顆型人工膝関節置換術（UKA）を2年間で68件実施しました。患者さん一人ひとりの病態や生活様式に応じた治療を提供しています。



脊椎外科

脊椎外科では、牛尾医師赴任後、脊椎固定術、椎間板摘出術、椎弓形成術、椎弓切除術、経皮的椎体形成術など幅広い脊椎手術に対応しています。脊椎手術は2024年度79件、2025年度94件、2年間で173件に達し、脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニア、脊椎圧迫骨折などに対する専門医療を提供しています。



▶ 外傷から高度専門医療まで幅広く対応

また、当院整形外科は地域救急医療の重要な担い手として、骨折観血的手術、髄内釘固定術、創外固定術など数多くの外傷手術にも24時間体制で対応しています。高齢者の大腿骨近位部骨折からスポーツ外傷まで幅広く受け入れ、早期離床・早期社会復帰を目指した治療に取り組んでいます。

現在の当院整形外科は、萩尾医師による股関節外科、日山医師による肩・膝関節外科、牛尾医師による脊椎外科、田中医師による手の外科という専門性を有する体制のもと、外傷から高度専門医療まで幅広く対応しています。今後も地域の皆さまに信頼される整形外科として、より質の高い医療の提供に努めてまいります。

手術件数

	2024年度	2025年度	合計
総手術件数	613	603	1,216
腱板修復術	20	27	47
肩人工関節	18	16	34
人工股関節(THA・再置換)	45	55	100
人工膝関節(TKA・UKA)	36	32	68
脊椎手術	79	94	173





● 「食べないことが治療」の時代から「食べることで治療」の時代へ完全に逆転

つい20年程前までは、「食物が体の中に侵入してきて異物(アレルゲン)として認識されてしまう現場は腸なんだ!」「だから食物アレルギーを発症してしまったら食べてはいけないんだ!」という、「経腸感作説」が信じられていました。世界で最も医学の研究が進んでいるアメリカの小児科学会(AAP)においてさえ、2000年前後までは、食物アレルギーの治療として「アレルゲンの完全除去」が正しいと信じられ、妊婦および小児のアレルゲン除去が推奨されていました。

ところが、1997年から2007年にかけての10年間で、アメリカの18歳未満の小児において食物アレルギーの割合が18%も上昇しました。その理由は単一ではないのですが、「食物アレルギーの治療と管理のためのガイドラインでアレルゲンの完全除去を推奨したことが一因なのではないか?」という見直しの機運が高まりました。5月号で解説しましたが、そうした流れの中で、2012年にキングスカレッジロンドンのGideon Lack教授の「二重抗原暴露仮説」が提唱されました。食物は口から入ると異物として認識されにくく、逆に「炎症のある皮膚」から侵入してきた場合に異物として認識されやすくなり、感作=食物アレルギーとして成立してしまうという説でしたね。(最近では、さらにアップデートされ、「炎症のある気道」から侵入した場合も、食物アレルギーが成立しやすいことが分かっています)

2015年にこのGideon Lack教授らによって「LEAP study」と呼ばれる研究が行われました。この研究では重度の湿疹や鶏卵アレルギーを既に発症していてピーナッツアレルギーもそのうち発症してきそうなハイリスクな乳児達を、ピーナッツを食べる群と、ピーナッツを食べない群に振り分けて、5歳の時にどうなるのかを比較する研究でした。この研究では、ピーナッツを食べなかった乳児達の17.2%がピーナッツアレルギーになったのに対して、ピーナッツを食べた乳児達の3.2%がピーナッツアレルギーになりました。つまり、ピーナッツを食べないとピーナッツアレルギーになる可能性が上がり、ピーナッツを食べるとピーナッツアレルギーになる可能性

が下がったのです。

2017年に日本の国立成育医療研究センターでも、「PETITstudy」と呼ばれる、「LEAPstudy」に似た研究が行われました。湿疹があつて食物アレルギーを発症しやすいような乳児に対して、鶏卵を食べさせる群と食べさせない群に分けて、1歳時点で鶏卵アレルギーを発症しているかどうかを比較しました。結果、鶏卵を食べなかった群では38%(19人/50人)が鶏卵アレルギーになりましたが、鶏卵を食べた群では4%(2人/46人)しか鶏卵アレルギーになりませんでした。つまり、鶏卵を食べないと鶏卵アレルギーを発症しやすくなり、鶏卵を食べると鶏卵アレルギーになりにくくなったのです。ちなみに、この鶏卵を食べていたのに鶏卵アレルギーを発症した2人は、湿疹の直りが悪い2人でした。つまり、食物アレルギーになるかどうかには湿疹が密接に関係していることが示唆され、「二重抗原暴露仮説」の正しさを間接的に証明したと言えます。

この2つの研究によって、「将来的にアレルギーになりそうなアレルゲンを早期に摂取した方が、食物アレルギーの発症を予防することができる」と考えられるようになり、食物アレルギーの治療の常識が完全に逆転し、世界中の食物アレルギーの治療ガイドラインが一気に書き換えられたのでした。

但し、これは「まだ発症していない食物アレルギーの予防」の話です。では、既に食物アレルギーを発症してしまった人はどうすればよいのでしょうか?既に発症してしまった場合も少しずつ食べた方がよい、ということが証明されつつあります。



● 免疫療法

「免疫療法」とは、既に自分の体があるアレルゲンのことを敵として誤認してしまった後で、そのアレルゲンが日常的に体の中にある状態を意図的に作り出して、「あれ、こいつなんかいつも体の中にあるから、もしかして敵じゃないのかも?」と慣れさせる治療のことです。

免疫療法はいくつか種類があります。歴史的に最も古い免疫療法は、アレルゲンを定期的に皮膚に直接注射する「SCIT」(注射による経皮免疫療法)です。ただ、当然痛いので広まることはありませんでした。

おそらく読者の皆さんが最も聞いたことがある、あるいは既に実施している免疫療法は、「SLIT」(舌下免疫療法)でしょう。スギの花粉症やダニの通年性アレルギー鼻炎に対して、スギやダニのアレルゲンが入った錠剤を唾液で溶かして3~5年間毎日内服する治療で、多くの人が実施しています。9割ぐらいの人に有効と言われていいます。

さらに、海外では、「炎症のない皮膚」にパッチと呼ばれるシールのような形でアレルゲンを張り付けて継続

的に吸収させるという「EPIT」（パッチによる経皮免疫療法）という最新の治療が実用化されつつあります。

これは教科書には書かれていないことですが、実は、私達日本人は、実生活の中で経口免疫療法を知らず知らずのうちに自分で実施していると私は思っています。どういうことかという、皆さんの周りで、米のアレルギーの人がいるのでしょうか？私は食物アレルギー患者をたくさん診察してきましたが、教科書的には米アレルギーの人は存在するらしいのですが、今まで一度も米アレルギー患者に出会ったことがありません。それはなぜでしょうか？

もちろん、「単に症状に気付いていないだけ」の可能性もありますし、米はアレルゲン性が低いと言われてますし、「日本の歴史の中で米のアレルギーを持つ人は生存に不利なので自然界の中で淘汰されてきた」可能性もあります。しかし、おそらくそれだけではなく、日本人が離乳食を開始する時、まだ免疫力が弱くて食物アレルギーを発症しにくい6-7か月頃に10倍粥から開始し、7分粥、5分粥、軟飯、白米と上げていきますよね。これは米というアレルゲンを粥にすることで、薄めて少量ずつ与えて時間をかけながら体に慣れさせ、知らず知らずのうちに米の経口免疫療法を行っていると考えています。アレルギーの仕組みが分かる遥か昔から、「赤ちゃんに

いきなり米をたくさん食べさせるとなんだか調子が悪くなることもあるから、柔らかく煮た粥から少しずつ食べさせよう」という経験則が、長い日本史の中で生まれたのではないかと勝手に推測しています。昔の人達が経験則として知っていたことを、現代人である私達は、改めて学び直しているのかもしれませんが。

経口免疫療法は、全ての食品で有効なのか分かっていません。「いつから」「どれくらいの量を」「どんな料理法で」摂取するのが正しいのか、まだ最適化もされていません。そのため、日本小児アレルギー学会は、経口免疫療法は標準的な治療法ではなく臨床研究として実施するように推奨しています。当院小児科では、経口免疫療法を臨床研究として実施しています。食物アレルギーでお困りの患者様は是非ご相談下さい。



連携医のご紹介

医療法人 晴仁会 つくばみらいファミリークリニック

院長 牧谷 光晴

診療科目 内科・消化器内科・糖尿病内科
小児科(1歳以上)

	月	火	水	木	金	土	
診療時間	9:00~11:45	○	○	○	／	○	○
	15:00~17:30	○	○	○	／	○	○

※土曜日の午後 14:00~16:30

休診日 木曜日・日曜日・祝日

連絡先 茨城県つくばみらい市富士見ヶ丘1-8-1
TEL 029-721-8025

道案内 県道355号 PIACITY(カスミ)、エネオスの交差点が目印です。



医療法人 晴仁会 つくばみらいファミリークリニックは、2020年5月より、つくばエクスプレス みらい平駅より車で10分の場所に開院致しました。

内科、消化器内科、糖尿病内科、小児科を標榜し、幅広い年代の方への初期診療の提供、糖尿病・高血圧・高脂血症などの生活習慣病の管理、胃癌・大腸癌をはじめとする消化器癌の早期発見、を3本柱に据えて、日々診

療にあたらせて頂いております。この他、各種予防接種、健康診断、かかりつけ高齢者への在宅医療の提供も行っております。

JAとりで総合医療センター様に精密検査や入院加療が必要な患者様をご紹介させていただく事も多く、その存在に日々助けられています。今後ともよろしくお願い致します。

見えない「骨の健康」を今チェック

骨粗しょう症は「骨折して初めて気づく病気」です

骨は年齢とともに少しずつ弱くなります。
特に50歳を過ぎると骨密度が低下しやすくなり、転倒などのちょっとしたきっかけで骨折することがあります。
骨粗しょう症になっても、初期にはほとんど自覚症状がありません。



こんな方は要チェック!

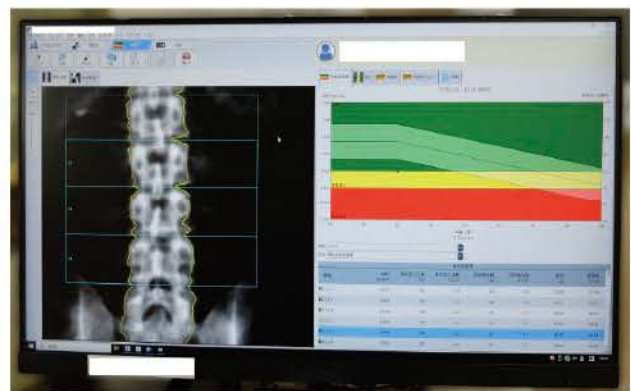
- ▶ 50歳以上の方
- ▶ 閉経後の女性
- ▶ 身長が縮んだ気がする方
- ▶ ご家族に骨粗しょう症の方がいる
- ▶ 過去に骨折したことがある方
- ▶ 腰や背中が曲がってきた方

骨密度検査とは

- ▶ 骨粗しょう症等の危険性を判定します
- ▶ 被ばくは胸部レントゲンの1/6程度と低線量
- ▶ 検査時間は5～10分
- ▶ 痛みはありません



骨塩定量検査装置



検査結果解析画面

健康寿命を延ばすために

骨折は寝たきりや介護のきっかけになることがあります。今の骨の状態を知ることが、将来の骨折予防につながります。

気になる方は診察時にお気軽にご相談ください。
※当院人間ドックでも骨密度検査が受けられます。



当院でお産した方からのメッセージ

助産師便り



- ✉ 初めての出産、育児で不安の中、先生を始め助産師さん看護師さんみんなとても優しく今思い返しても一生の思い出です。おかげで入院生活も楽しく過ごせたので我が子とも心の余裕を持って育児ができました。ありがとうございました。
- ✉ 先生や助産師さんはアットホームな感じでとても話しやすく、相談しやすかったです！安心して過ごせました♪
- ✉ 初めての出産、育児でしたが先生を始め助産師さん、看護師さんがとても優しくそして頼もしく入院生活も楽しく子供と向き合えました。ありがとうございました。
- ✉ 先生や助産師さんはアットホームな感じでとても話しやすく、相談しやすかったです！安心して過ごせました♪
- ✉ 初めての出産で不安でいっぱいでしたが手厚いサポートと安心できるお声がけのおかげでまたお産する際はお世話になりたいと思いました
- ✉ 今回4人目の出産でした。上の3人を完母で育て、今回もと少し頑張りすぎてしまってベビーの体重が減りすぎてしまいました。そんな時、助産師さんが話を聞いてくれて親身なってくれたのがすごく嬉しかったし、安心しました。今は混合ですくすく大きくなっています。
- ✉ 何度も相談にのっていただき、助けていただき、ありがとうございました。
- ✉ とても安心して出産することができました。前回はJAとりでさんで出産し、とても良かったので今回もお願いしました。助産師さんはみんな親身になって話を聞いてくれたり、出産時も傍にいてずっと声をかけてくださいました。初めての無痛分娩でしたが、恐怖もありましたが安心して出産できたと思います。ありがとうございました。
- ✉ 不安だったり辛かったりした時も皆さんとても良くしていただき大変感謝しております。本当にありがとうございました!!
- ✉ 陣痛中から出産後まで沢山サポートしていただきました。特に陣痛中から出産後すぐのサポートは、とても有難くとても助かりました。みんな優しくサポートしていただいたおかげで陣痛を乗り越えることができ無事出産する事ができました。みなさん嫌な顔一つせず優しくしていただき、ありがとうございました。



JAとりで総合医療センター医療講演会

透析にならないためには

(腎臓病について学ぼう)

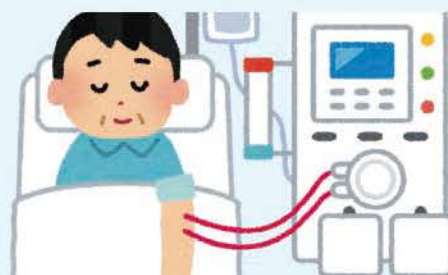


9月19日 土 午後2時～(1時30分開場)
JAとりで総合医療センター 新棟3階講堂

講師 JAとりで総合医療センター腎臓内科科長
大下 格 先生

入場無料 先着順、予約なし

主催：取手市井野台町内会
共催：JAとりで総合医療センター
取手市本郷2-1-1
☎ 0297-74-5551



祝日の一部を開院します

令和8年度も祝日の一部を開院します。全ての診療科で平日と同じ診療、検査を行う予定です。外来受診の際にご注意いただくようお願いいたします。

開院日 10月12日(月)



「JAとりで通信」のアンケートにご協力をお願いします

右のQRコードからアンケートを開きお答え頂くようお願いいたします。



今月の表紙

当科は整形外科全ての分野（脊椎、肩、手の外科、股関節、膝関節）の専門医師を有する県内でも数少ない整形外科です。各専門医師による最適な医療を提供させていただきます。

発行所：JAとりで総合医療センター 発行人：富満 弘之 編集：広報室
〒302-0022 茨城県取手市本郷2-1-1 TEL:0297(74)5551 URL:<http://www.toride-medical.or.jp/>